

令和5年度 春日山原始林・奈良公園フィールドワーク

第4回 概要報告

奈良教育大学 ESD・SDGs センター研究員 杉山 拓次

実施日：2023年8月12日（土）18:00～21:00

参加者：6名（学生：5名 外部：1名 教職員：杉山、中澤）

■実施場所：春日山原始林

■第4回 春日山原始林の夕暮れ～夜（春日山遊歩道南部）

2023年8月12日（土）18:00～21:00

概要：電灯のない月明かりだけの森の中で過ごし、夜の森の気配を感じます。

18:00 春日山遊歩道南入口集合

18:15 挨拶・フィールドワークスタート

19:00 妙見宮にて軽食。ムササビに関する説明

19:30 寝転びポイントまで移動

19:50 寝転びポイントで、地面に寝転ぶ。

20:30 ライトを照らしながら下山。

21:00 遊歩道南入口到着、解散

■概要報告

第4回目となるフィールドワークは、夜の森。夕方の少し涼しくなってきた時間に遊歩道の入り口に集合。森へ入ると涼しい空気が流れているのを感じることができた。

夕暮れの時間、歩道は暗いが、見上げると木々の高いところに夕焼けがあたり赤く染まっているのが見える。木々が光を遮っていることによって森の空気が涼しいことを実感しながら歩く。時折、足を止めて、春日山原始林の大きな木々についての解説を行った。

次第に薄暗くなっていく森を歩きながら妙見宮まで。軽食をとりながら暗くなっていくのを待った。春日山の夜の生き物の代表であるムササビについて、人との関わりなどを解説していると、ムササビの鳴き声が聞こえてくる。観察できないかとしばらく待ってみるが、なかなか近くに訪れてくれる気配はなく、森の中で寝転ぶポイントまで下山することとした。

暗い森を歩き、夜の森の空気を感じる。ポイントまで到着すると、それぞれシートを敷いて、道の真ん中で寝転んでもらう。ポイントは木々の間が空いているギャップのため、そこから星が見えている。しばらくすると、ムササビの鳴き声が何度か聞こえてくるものの、近くまで寄ってくることはなかった。寝転んで空を見上げていると、台風も近づいていたこともあり、風がごうごうと音を立てて吹いたり、森は決して静かではなく葉の揺れる音、動物や虫の鳴き声や気配を感じることができた。30分程度時間を過ごしたのち、遊歩道入り口まで下山。途中、「ホーホー」というフクロウの鳴き声があったのち、ギャー！と叫ぶような声が聞こえた。また、ライトの明かりに目がひかり、ムササビも確認することができた。昼の様子とは大きく異なる森の様子を感じる機会となった。

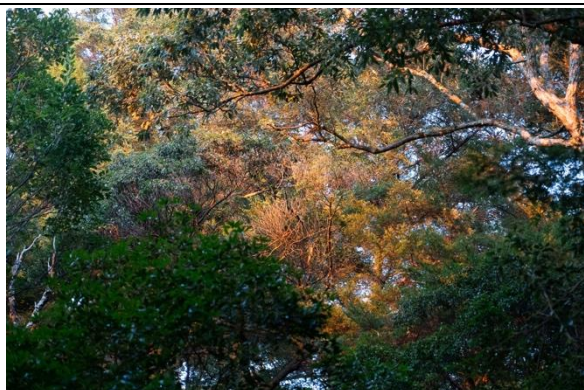
■写真



夕日を背にフィールドワークスタート



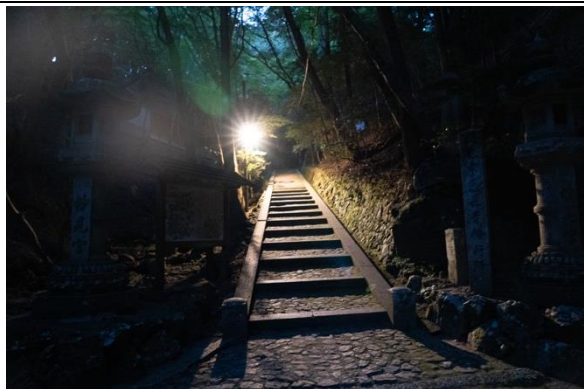
遊歩道は日が差さず暗い



夕焼けの陽があたる林冠部



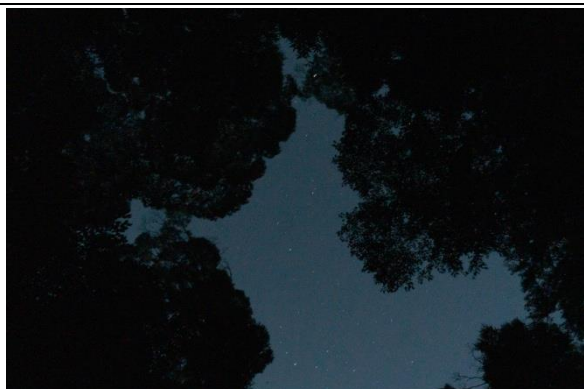
空はまだ明るい森は真っ暗



妙見宮



森で寝転ぶ



ギャップから見える星空



ムササビに遭遇できた。